



ラリー・ウィリアムズのパートナー なりた・ひろゆきと

米アノマリーの第一人者、エール・ハーシュのあとを継いだ ジェフリー・A・ハーシュによる  
主要市場を分析した最新相場予測レポート！

▼▼▼ご購入の詳細はこちら▼▼▼

<http://trs.jp/p/5962/2011411200000>

2021年3月24日

### Mean Reversion After Biggest 1-Year Spike Since 1949?

1949年以降 一年のスパイク急騰後は中心値回帰か？



1949年以降のS&P500の一年の変更リターン

S&P500の2020年3月23日の安値からの1年間の上昇率が75%という巨大な数字が話題になっているが、実際には+74.78%である。これは新たな強気相場の始まりかもしれませんが、(チャレではなく)今後もこのような上昇を期待すべきという意味ではない。

1949年まで遡ってS&P500の1年間のローリング・リターンを計算してみたところ、長期的な強気の動きの初期段階ではこのような大規模なスパイクが発生したが、このような大規模なリターンは持続せず、市場は平均値に回帰する傾向がある。1949年以降の算術平均または平均的なローリング1年リターンは9.15%で、これは悪くない。

長引くパンデミック/ワクチンや政治的・地政学的問題、FRBや債券市場からのあらゆるノイズ、ロビンフットやレジットの株の押し上げ、豊かなバリュエーション、揺らぐ内部構造、拡張されたテクニカル、そして「ベスト六ヵ月間: 11月から4月まで」の終わりが目前に迫っていることから、「ワースト六ヵ月間: 5月から10月まで」の間に市場が統合されると予想しても不思議ではない(別名「5月に売れ! Sell in May」)。

前回、このような規模の1年間のローリング・リターンを達成したのは、2010年3月9日にS&Pが2009年3月9日の世俗的な弱気市場の安値から+68.57%上昇したときだった。そのとき、2010年7月2日の安値まで-10.34%の調整があり、2010年3月9日から2011年3月9日までの1年間のローリング・リターンは+15.75%であった。また、2010年5月6日のフラッシュ・クラッシュも忘れてはならない。決して「弱気」ではないが、近い将来、少し注意してポートフォリオを防衛することは、決しておかしいことではない。